

こぶし

第 1 号 2012 年 7 月 12 日
高知大学教職員組合中央執行委員会機関紙
朝倉・物部地区内線 1159 外線 844-1489
E-mail:union@mb4.seikyuu.ne.jp
<http://kuunion.cocolog-nifty.com/blog/>

2012年度中執役員からのご挨拶

中央執行委員長 はらさきみちひこ 原崎道彦 (教育学部)

原崎です。東北出身。まもなく 53 歳。所属は人文社会科学部門で教育学部。担当は哲学。高知大学に来て 21 年がたちました。それだから、なのか、あるいは、それにもかかわらず、なのか、このごろ耐えられないのが、文科省などからやってくる書類の空疎さ。たとえば、6 月 4 日の「社会の期待に応える教育改革の推進」。現状分析がほとんどありません。1 ページめの上半分だけ。あとは、最後の 12 ページまで、こまごまとした指示の羅列。同じ日に文科省がだした「大学改革実行プラン」「主要事項説明資料」も同じです。私たちの社会がかかえる問題の分析は何もなされていません。それについて考えなければならない、とも書かれています。これこれのことをするように、という具体的な指示の羅列のみ。考えずに、したがえ、ということなのでしょう。この書類を読んでできるのは、それだけです。そしてそのとおりに、考えずに、したがおうとしている私たちの大学。私たちに今いちばん必要なのは、考えること、なのだと思えます。考えることをやめたら、大学は大学であることをやめます。すでに、やめているのかもしれませんが。

中央執行副委員長 たねだこうじ 種田耕二 (理学部)

昨年の新役員のご挨拶の中で、今年が本当に最後ですと宣言しました。ところが、またまた臆面もなくの登場です。後任の役員を探すのが大変だったことと、もう一つは原崎委員長の一言でずるずるこういう羽目になりました。その一言とは、「再雇用だといっても理論的には役員になることは可能です」ということです。しかしこれはあくまで裏ワザ、本来あるべきではないと本人も思っています。それにしても、来年は本当に理論的にも不可能となりますので、来春 3 月までの期限付き役員ということになります。それまでに理学部の次期役員候補をぜひとも確定させておきたいを願っていますが、どうなることやら。去年は計画したレク（加茂山ハイキング）が雨に祟られ、さんざんでしたので、今年こそはと張り切っています。限られた期間ですので、せいぜい楽しく思っているのですが、大学を取り巻く環境は日に日に厳しくなっているようで、気がかりです。再雇用のロートルですが、気だけは現役バリバリのつもりです。よろしく願います。

中央執行副委員長 なかみちかずし 中道一心 (人文学部)

はじめまして。今回、ベテランのおふたりと仕事をする事になりました。若造（32 歳）の役割をきっちり担いたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。



現在、わたしは人文学部社会経済学科で「競争戦略論」を担当しています。論文を読んで仕事をするタイプというよりは、国内外の企業にお邪魔して仕事を仕上げるタイプの研究をしてきました。とりわけ、工場やビジネスプロセスの改善、事業の仕組み（ビジネスモデル）の転換など、90年代から現在までの非常にシビアな局面に、企業が社内外の環境をどのように捉え、どんな改革を打ち、それにどう取組み、その結果、どんな成果を得たのかについて、観察してきたつもりです。恐らく、国立大学もこの10年強のあいだ、ひたすら改革を進めたことだと思います。しかし、企業と同様、うまく改革した大学とそうでないところの間に、ジワジワと差が出始めていると、わたしは見ています。

なにがこの差を生み出させたのでしょうか？ わたしはもっとも重要なファクターとして、「当事者意識の強さ」を挙げたいと思います。わたしたちはもっとも当事者意識を持って、組織人として語り合わなければならないのではないのでしょうか？ 60代は悠々、逃げ切りセーフ？ 50代もなんとか逃げ切れるかもしれません。20・30・40代は転職や転出も可能でしょう。しかし、それで良いのでしょうか？

わたしは、はじめてキャリアを与えてくれた高知大学に恩返しをしたいと思い、「教育も未熟だし、科研費PJや単著執筆、さらには組織運営も忙しいのになあ」（あと、これまでの弱腰組合も情けない）とぼやきながら、この大役を引き受けました。わたしができることは、わたしたちが当事者意識を持てる職場にすることです。政府からの「要望」を丸のみにして、2014年3月末までの給与カットが強行されました。わたしたちは大学のほとんど唯一の経営資源なのです。残念なことです。大学執行部に対しては、希少な経営資源であるわたしたちと真面目に向き合うことから求めなければなりません。非常に前途多難ですが、精いっぱい取り組みたいと思います。どうぞよろしくお願います。



中央執行委員会は、給与引き下げに関して資料の開示を求める申し入れを行いました。
申し入れ文書を以下に掲載します。

2012年7月9日

国立大学法人高知大学長
脇口 宏殿

申し入れ

高知大学教職員組合
中央執行委員長 原崎道彦

国家公務員給与引き下げと連動して本学でおこなわれている給与引き下げに関して、以下の資料の開示を求めます。

1. 大学が予想した運営費交付金削減の具体的な額とその算出方法に関する資料。
2. 給与削減幅を小さくするためのどのような学内措置が可能であるか（あるいは不可能であるか）を判断するためになされたシミュレーションに関する資料。
3. 給与削減にともなう代償措置の検討に関する資料。